

第5次総合振興計画事務事業評価シート(様式1)

提出日	5.6.23
担当	健康福祉課
グループ名	福祉グループ
記入者名	

1 事業概要

(1)事業名	社会福祉一般事務費	(2)事業種別 (新規・継続)	継続	(3)事業性格 (政策・一般)	一般事業									
(4)第5次総振での位置づけ		(5)予算・財源等の別												
①基本目標	健康で安心して住めるまち(保健・医療・福祉の充実)	①会計区分	一般会計											
②大項目	地域福祉	②財源区分	町単独											
③中項目	地域福祉の体制づくり	③予算科目	款	3	項	1	目	1						
④施策	社会福祉協議会への支援	④予算事業名	社会福祉一般事務費											
⑤施策コード	5.1.1.2	掲載ページ	79	ページ										
(6)実施根拠		(7)総合戦略												
①事務分類(自治・受託)	自治事務	①総合戦略 (該当事業名)	無											
②根拠法令	小川町地域福祉基金条例等	③事業期間	開始	不明	年		月	から	終了	未定	年		月	まで

2 事業の目的・対象及び内容

(1)目的(何のために行うか)	(3)手段(内容・どのような取り組みか)
地域において町民一人一人が安心して暮らせるよう、町民・町・社会福祉協議会・ボランティア等が連携し、地域で支え合う仕組みの構築を推進していく。	・小川町社会福祉協議会への補助 ・地域福祉活動を担う人材確保と育成

(2)対象(誰に対して、何に対して行うか)	(4)成果イメージ(どのような状態になることを目指すか)		
町民 ※地域住民が、民生委員、地域福祉委員等と協働し、支援を必要とする方を支える活動が行えるよう働きかける。	地域での支え合い活動により安心して住み続けられる体制を構築し、地域で問題を抱えている方にきめ細やかな支援が提供できる。 ・ボランティア登録人数の増加 ・ボランティア登録団体数の増加		
対象数	28,046	単位	人

(5)事業を取り巻く環境(社会環境、町民ニーズ等)、団体、議会等からの要望など
近年、少子高齢化や核家族化、経済環境の変化、価値観の多様化により、地域福祉を取り巻く環境は大きく変わってきている。こうした状況を背景として、地域におけるコミュニティの希薄化、子育て、ひとり暮らし高齢者、災害時の避難、介護、生活困窮者など、様々な課題が生じている。これらには、行政だけで解決できない課題が多くあり、今まさに地域住民と町や事業者などで協働した地域福祉のまちづくりが求められている。

(6)SDGsへの貢献

3 事業のコスト(実績・予算・決算) (単位:千円)

項目	(1)事業(内容)名称					
	社会福祉一般事務費					
	決算・予算年度	R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度予算
(2)事業費内訳						
負担金補助金		43,075	36,005	39,535	40,603	45,491
報酬・一時金(会計年度任用職員)		0	750	950	0	2,029
需用費		104	65	65	150	105
役務費		131	135	161	181	397
委託料		235	193	193	188	0
その他		50	33	13	9	192
直接事業費合計		43,595	37,181	40,917	41,131	48,214
(3)財源内訳						
国庫支出金		0	0	0	0	0
県支出金		0	0	9	9	9
地方債		0	0	0	0	0
その他特定財源		4,045	800	832	804	4,001
一般財源		39,550	36,381	40,076	40,318	44,204
合計		43,595	37,181	40,917	41,131	48,214
(4)補助金名						
(5)人件費						
投入職員数		0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
年間人件費		1,543	1,528	1,526	1,508	1,539
(6)総事業費		45,138	38,709	42,443	42,639	49,753
サービス量(人)		29,938	28,855	28,494	28,046	28,046
サービス単価		1.5	1.3	1.5	1.5	1.8
(単位)		千円/町民1人あたり				

4 指標の検証(活動指標・成果指標)		社会福祉一般事務費				
指標名		単位	R3年度決算	R4年度決算	R5年度予算積算	
(1) 活動指標(実施した事業の量:回数、延長、面積等)						
指標名		目標値				
		実績値				
		達成率				
		目標値				
		実績値				
		達成率				
(2) 成果指標(実施した結果として得られた成果の量と達成度:人数、世帯数、件数、団体数、コスト指標等)						
指標名	社会福祉協議会のボランティア登録人数 (総振目標指標p80) R7年度目標値 80人	目標値	人	80	80	80
		実績値	人	32	35	
		達成率	%	40.0	43.8	
	社会福祉協議会のボランティア登録団体 数(総振目標指標p80) R7年度目標値 33団体	目標値	団体	30	30	30
		実績値	団体	26	26	
		達成率	%	86.7	86.7	
(3) その他指標に現れない成果						
高齢者世帯が増加している中、社会福祉協議会に登録しているボランティアは、地域住民と密接に関わるため、ボランティアの果たす役割は非常に大きい。						
5 事業評価						
(1) 項目別評価						
評価項目		評価	評価理由	評価した理由を選択してください。		
必要性	事業の必要性	1 1 必要性は高い 2 どちらともいえない 3 必要性が低い	2	1 事業の実施が関係法令等で定められている 2 住民や団体など外部から要望・要請が多い事業である 3 その他()		
妥当性	実施主体の妥当性	1 1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	2	1 事業の主体が関係法令等で定められている 2 民間では事業を行っておらず、行政が主体となるべき事業である 3 その他()		
	手段の妥当性	1 1 妥当である 2 どちらともいえない 3 妥当性が低い	2	1 事業を行うのに民間活力(企業、NPO、ボランティアなど)を活用している 2 他に有効な代替手段が見当たらない 3 その他()		
効率性	コスト効率性 人員の効率性	2 1 効率的である 2 どちらともいえない 3 効率性が低い	3	1 サービス単価は減少している 2 サービス単価を維持している 3 その他(ボランティア登録人数は増えたが団体数は現状維持のため)		
公平性	受益者の偏り	1 1 偏りはない 2 どちらともいえない 3 偏りがある	1	1 公平に分配されている 2 おおむね公平に分配されている 3 その他()		
有効性	成果の向上	1 1 成果が上がっている 2 どちらともいえない 3 成果が下がっている	2	1 成果指標は、目標値より実績値が上回っている 2 成果指標は、前年度より向上している 3 その他()		
進捗度	事業の進捗	2 1 順調に進んでいる 2 概ね順調である 3 あまり順調に進んでいない	2	1 年度内に予定した事業は完了した 2 年度内に予定した事業の8割以上は完了した 3 その他()		
(2) 総合評価(上記結果を踏まえて、問題点や課題を記載してください。)						
支援を必要としている単身の高齢者が増加している中、様々な地域課題に対応しやすい社会福祉協議会の役割はますます重要である。しかし、登録ボランティア自身が高齢化しており、後継者もなく、昨年度は増えたものの、それまでは登録数が減少傾向であった。今後は地域の人材育成・確保が課題である。						
6 事業の方向性の判断		1 拡充 2 現状維持 3 縮小・統廃合				
評価主体	(1) 一次評価 (担当課長)	(2) 二次評価 (政策推進課長)	(3) 最終評価 (町長)			
評価	2					
説明	地域における様々な課題や住民ニーズが高まる中、地域共生社会実現に向けて地域の人材育成が必要。					